

# 扇橋閘門



扇橋閘門は、江東三角地帯を東西に流れる小名木川(おなぎがわ)のほぼ中央に位置しています。

水位が異なる河川を通航可能にした”ミニパナマ運河”と言える施設で、2つの水門(前扉及び後扉)に挟まれた閘室(こうしつ)と呼ばれる水路の水位を人工的に変動させることにより、船の通航を可能にします。

この扇橋閘門は、昭和47(1972)年1月の着工から、約5年の歳月と約30億円の事業費をもって昭和52(1977)年に完成しました。

## 閘門の仕組み

通過時間: 約6分

① 入船

② 前扉閉鎖

③ 排水ゲート開放

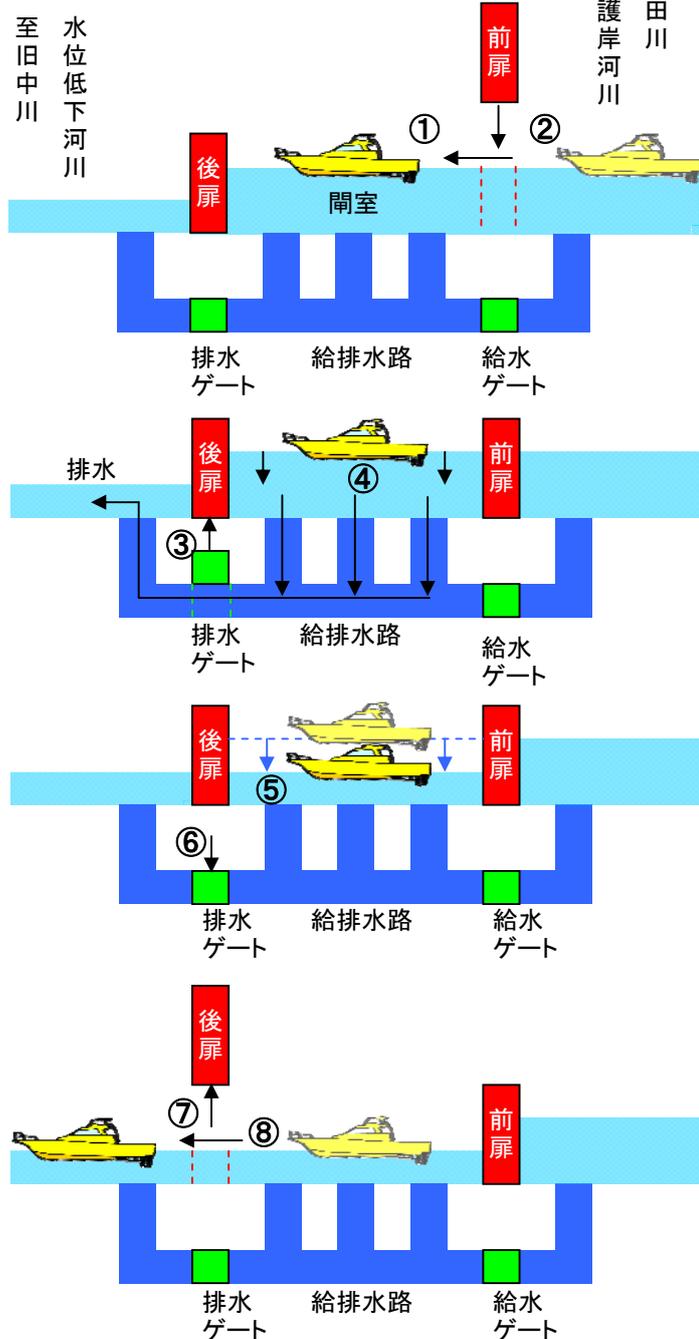
④ 閘室水位下降

⑤ 水位調整完了

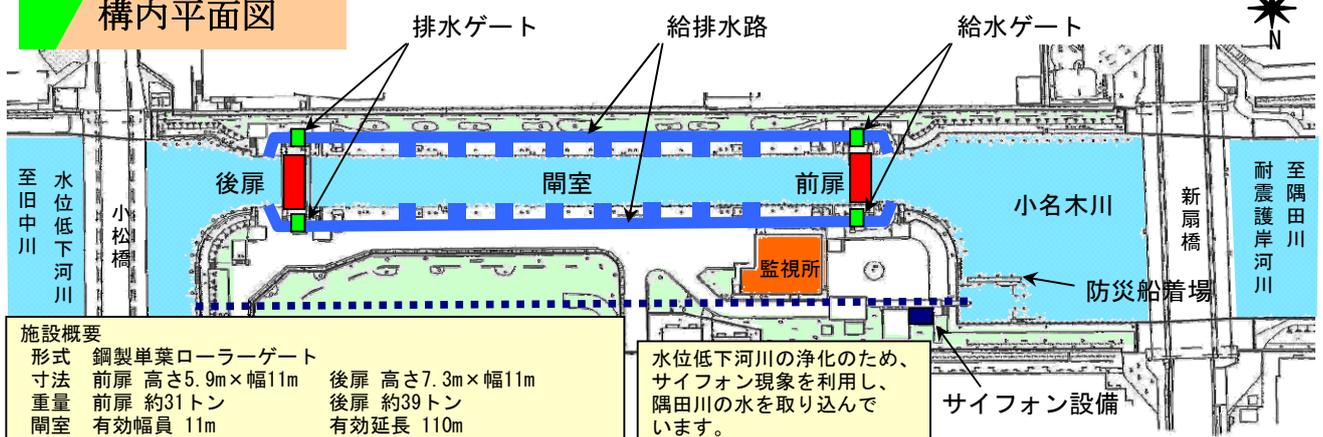
⑥ 排水ゲート閉鎖

⑦ 後扉開放

⑧ 出船



## 構内平面図



### 施設概要

形式	鋼製単葉ローラーゲート	
寸法	前扉 高さ5.9m×幅11m	後扉 高さ7.3m×幅11m
重量	前扉 約31トン	後扉 約39トン
閘室	有効幅員 11m	有効延長 110m

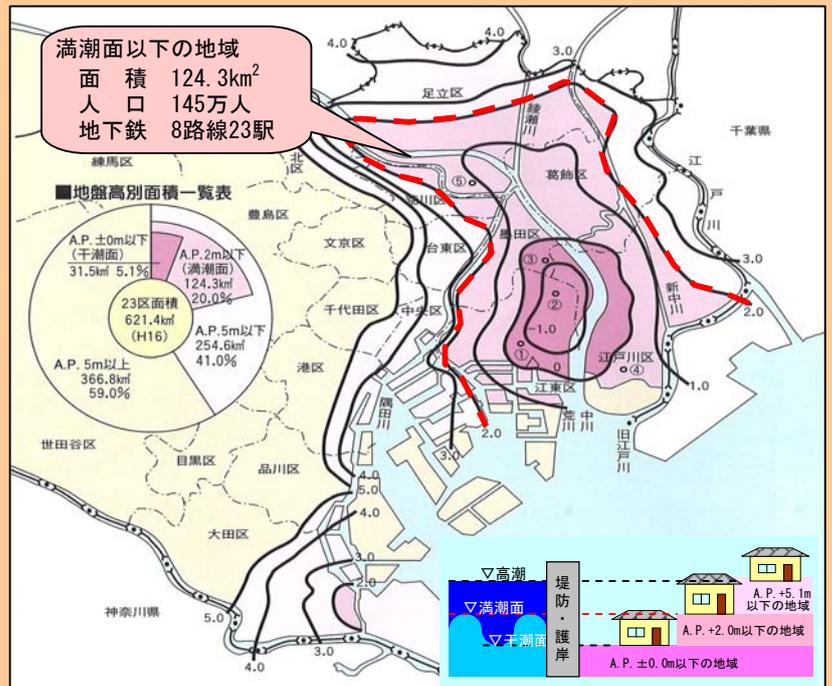
水位低下河川の浄化のため、サイフォン現象を利用し、隅田川の水を取り込んでいます。

## 東部低地帯の地盤

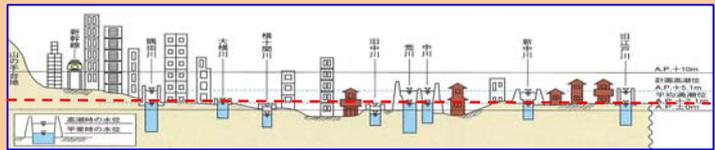
東部低地帯は、荒川、隅田川などの大きな河川とそれらの支川・派川が縦横に流れていることから、過去たびたび洪水や高潮などの水害に見舞われてきました。

また、沖積層と呼ばれる軟弱な土砂が厚く堆積している地域で、明治以降、産業の発展に伴う地下水の汲み上げにより、地盤沈下を誘発したため、水害に対してきわめて弱い地域となりました。

東京都では、水害から東部低地帯を守るため、高潮防御施設整備事業、江東内部河川整備事業、スーパー堤防等整備事業、耐震対策事業を実施しています。



A.P.(Arakawa Peil)とは中央区新川付近の隅田川の最低水位を0mと定めた高さの表示方法のことで、標高(T.P.)0mはA.P.+1.134mとなります。



## 低地河川の整備

### 高潮防御施設整備事業

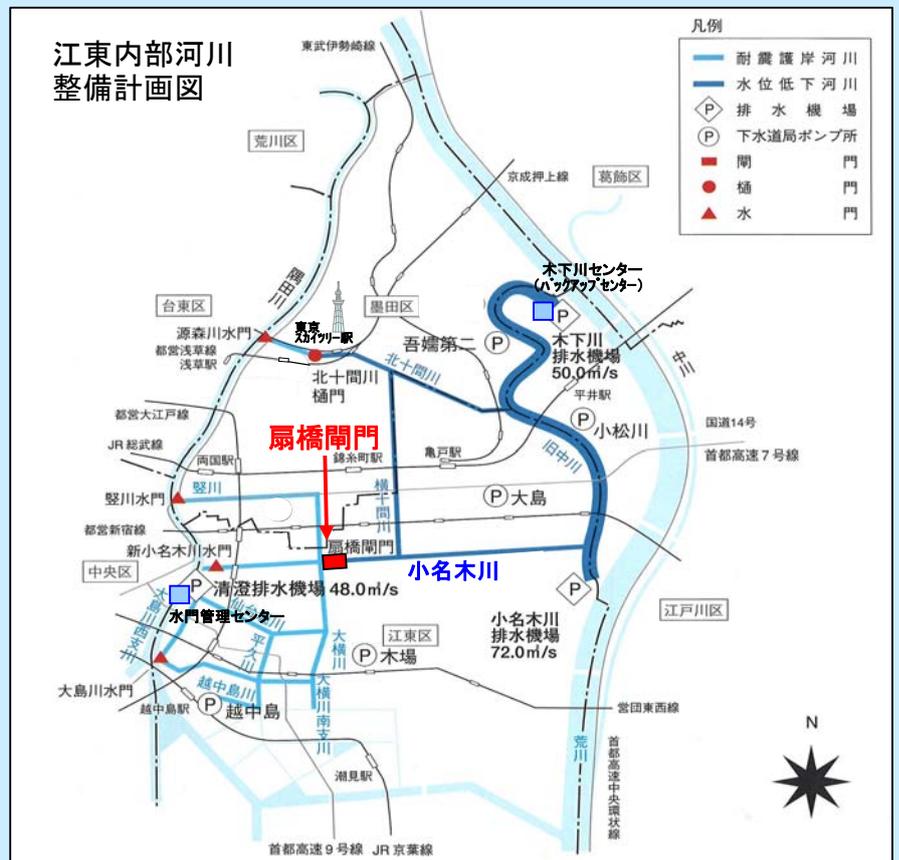
隅田川、荒川などの大きな河川や臨海部について、東京都建設局、港湾局および国土交通省で分担して、防潮堤、護岸および水門・排水機場を整備しています。

### 江東内部河川整備事業

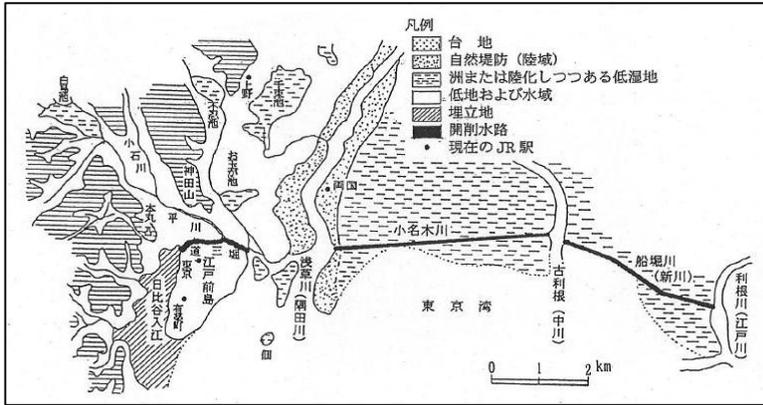
江東三角地帯の比較的地盤が高い西側河川については、耐震護岸方式により整備を進めています。

特に地盤が低い東側河川については、水門等で河川を閉め切ることで、干潮面以下(A.P. -1.0m)まで水位を低下し、水害に対する安全性を確保しています。

この東側の水位低下河川と西側の耐震護岸河川の通航のため、扇橋閘門を建設しました。

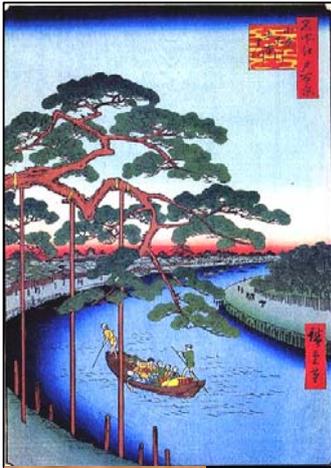


## 小名木川の歴史

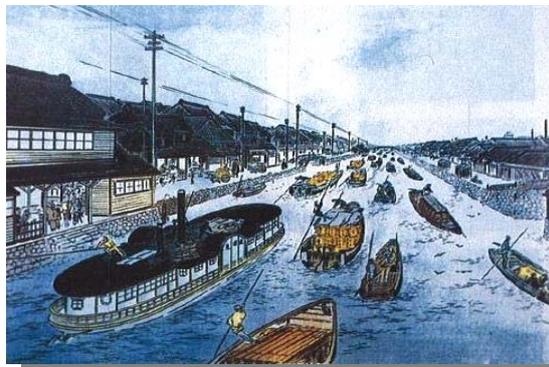


徳川家康は、入府して間もなく(1590年頃)江戸に町をつくるため、土地の造成や埋め立て、上水設備などの都市基盤整備を進めました。

小名木川は、徳川家康の命を受けた代官小名木四郎兵衛(おなぎしるべえ)によって開削された沿海運河で、行徳の塩などの物資を江戸へ輸送するための重要な水路として利用されました。



小名木川・五本松



小名木川眺望 (明治)

近代になり、物資輸送の動脈として多くの船が通航していましたが、時代が進むにつれて輸送手段が自動車、鉄道等へ移行したため水上輸送は減少しました。

現在の小名木川は、事業用船舶やプレジャーボートが通航するとともに、レガッタやカヌーなど水上スポーツを楽しむ方や遊歩道で散歩や釣りを楽しむ方など、いこいの水辺空間として多くの方に利用されています。

### 案内図



小名木川・番所橋

#### 扇橋閘門

所在地 東京都江東区猿江一丁目5番18号  
電話番号 03-3631-1373

#### お問い合わせ

東京都江東治水事務所 水門管理課  
電話番号 03-5620-2493  
ファクシ 03-5620-2496